

## スカート丈の変化と動作との関係

○田中百子 永井房子 伊藤順子

(相模女大短大)

目的 婦人服として日常用いられるスカートは多様なデザインがあり、特にスカート丈はワンピース、コートなどの着丈とならび流行を左右する要因として、毎年スカート丈が発表され、その年の流行丈が決まることが多い。しかし、近年では流行のスカート丈を含めマイクロミニ丈からマキシ丈までさまざまなスカート丈が着用されている。スカート丈は長さにより、日常生活において歩きにくさや階段昇降のしにくさなど動作に不都合が生じたり、疲労を感じることを経験する。その際、不都合を解消するために運動量が大きくなりエネルギーの消費も増えると考えられる。そこで、今回スカート丈と動作との関係をみるためにエネルギー消費の観点から検討を試みた。

方法 被験者として健康な女子学生(20才)の中から瘦身、普通、肥満体型各1名選んだ。実験着のスカートは一般的に用いられる素材とした。デザインはタイトスカートとした。スカート丈は膝丈、くるぶし丈(スリット明きは膝位置)の2種類である。動作は安静時、歩行、階段昇降の3動作とした。エネルギー代謝量は3分間ダグラスバックを装着して各動作を行なったのち、レスピライザー(Model EM-10 7kg)により測定。同時に血圧、脈拍についても測定した。

結果 日常生活において丈の長いスカート(ロングスカート)を着用した場合、一般的に疲労を感じることを経験するので、スカート丈の違いによる歩行、階段昇降を比較したスカート丈は膝丈よりもくるぶし丈の長いスカートの方が血圧、脈拍、呼気量、エネルギー代謝量いずれも大きくなる傾向を示した。